

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

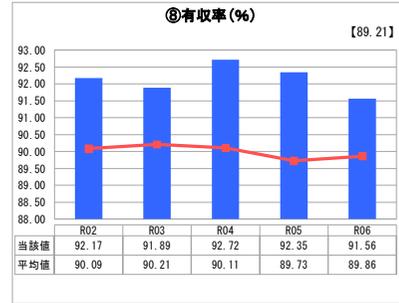
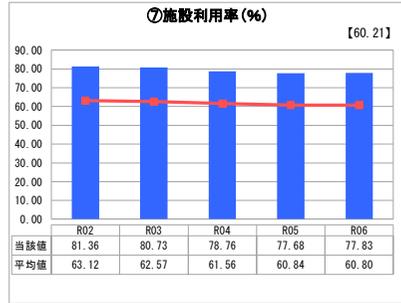
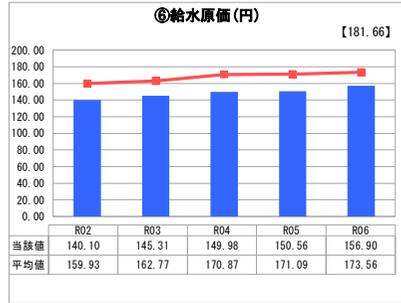
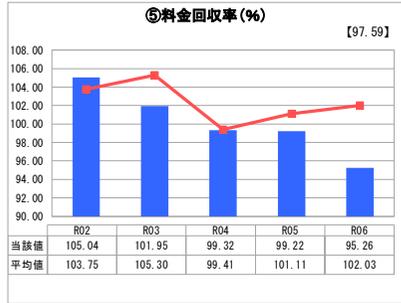
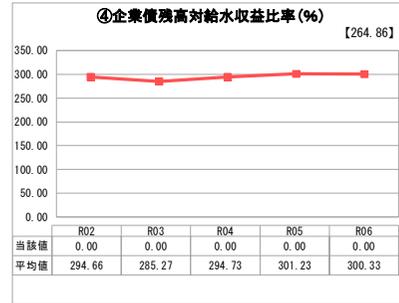
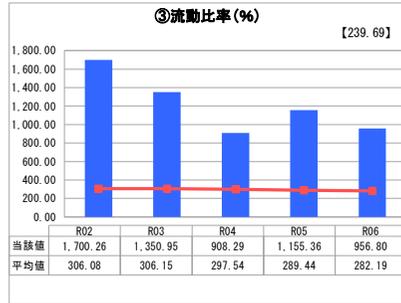
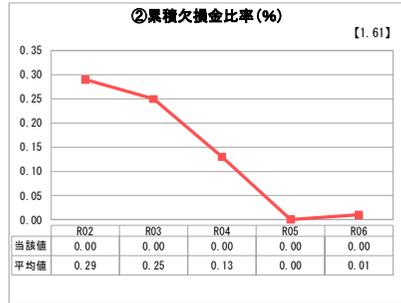
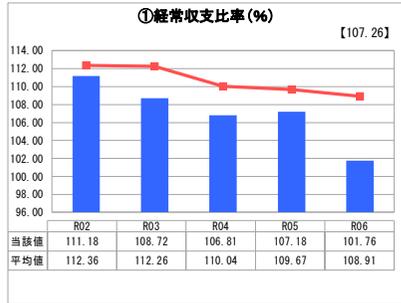
埼玉県 坂戸、鶴ヶ島水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	民間企業出身 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	98.39	99.61	2,508	

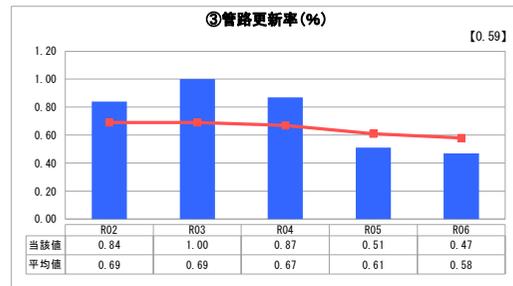
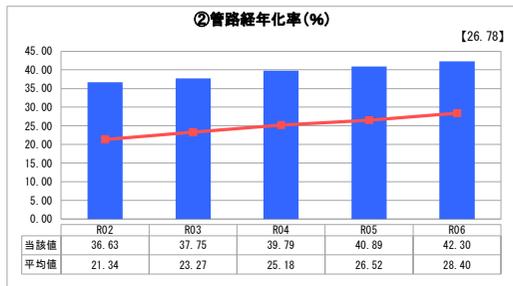
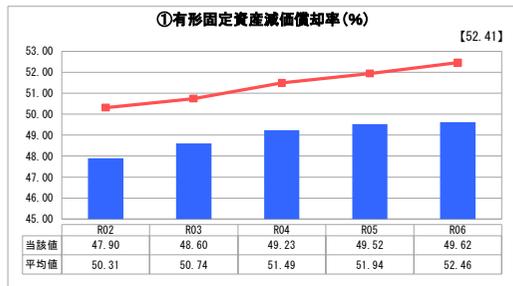
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
168,413	58.67	2,870.51

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
水道利用加入金の減少や委託料の増加などにより、前年度と比較すると下降しており、全国平均・類似団体平均値を下回っている。
- ② 累積欠損金比率  
欠損金が生じていないことを表している。
- ③ 流動比率  
全国平均・類似団体平均値を上回っており、短期的な債務に対する支払能力を備えている。
- ④ 企業債残高対給水収益比率  
企業債による外部からの借入金が無く、自己財源による経営であることを示している。
- ⑤ 料金回収率  
前年度と比較すると給水原価の上昇により大きく下降している。令和4年度以降100%を下回る状況が続いており、経費の削減及び料金改定が必要である。
- ⑥ 給水原価  
全国平均・類似団体平均値を下回っているが、今後施設更新に伴う減価償却費の増加等により数値の上昇が予想される。
- ⑦ 施設利用率  
全国平均・類似団体平均値を上回っており、施設を効率的に利用している。
- ⑧ 有収率  
前年度と比較すると令和6年度は下降しているが、類似団体平均値を上回る状態を維持している。今後も漏水調査の継続的な実施や計画的な老朽管の更新により、有収率の向上に努める。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
前年度と比較すると上昇しているが、類似団体平均値を下回る状態を維持している。しかし、上昇傾向にあるため計画的に償却資産の更新を行う必要がある。
- ② 管路経年化率  
類似団体平均値を上回る状態を維持しており、平均値の約1.5倍の数値となっている。法定耐用年数を越えた老朽管が多いことを示しており、さらなる増加が予想されることから計画的な更新をさらに積極的に進める必要がある。
- ③ 管路更新率  
令和2～4年度は類似団体平均値を上回っていたが、令和5・6年度は下回っている。これは令和5年度から工事規模を拡大し、複数年度にわたる継続事業として発注する取組を順次開始したため、年度内に工事全体が竣工していないものは集計に含まれないことに起因している。引き続き配水本管等の更新を計画的に実施し、管路更新率の向上に努める。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、ほとんどの指標が良好な数値を示しており、類似団体との比較においても概ね良好な経営状態であるといえる。しかし、料金回収率については100%を下回っていることから、給水に係る費用を給水収益で賄っていない状態となっている。そのため、経費の削減及び料金改定が必要である。

老朽化の状況については、管路経年化率が全国平均・類似団体平均値を上回っており、積極的に老朽管対策を推進していく必要がある。

今後、給水人口の減少に伴い収益の減少が見込まれ、一方で、施設更新等に係る費用が増大し、財政が逼迫していくことが予測されるため、引き続き経費の削減に努めるとともに、効率的な事業経営に取り組む。